

身延山大学における博物館学芸員 資格取得課程の現状と課題

望 月 真 澄

1 身延山大学（以下本学と略称）における博物館教育課程

本学は、平成7年度に3年制短期大学から4年制大学に改組転換された大学である。学部は仏教学部のみで構成される単科大学であり、平成11年から仏教探求コースと仏教教養コースの2つのコース制をとっている。仏教探求コースは①仏教学・仏教史、②日蓮教学・日蓮宗史・法華経、③宗教学・宗教史、といった僧侶を志望するもの、仏教教養コースは①文化財修復・彫刻・仏教芸術・仏教文化、といった仏教を教養として学習するもの、それぞれを対象としたカリキュラム内容となっている。

「身延山大学」という大学名が示すように、日蓮宗や日蓮聖人門下連合に属する寺院子弟や在家で僧侶を目指すものが大部分を占めるが、仏教文化や仏像修復を学ぼうとする学生もいる。博物館学芸員資格の取得講座は、大学の改組転換3年目の平成9年に開講されたが、コースにかかわらず仏教学部に在籍していれば取得できるようになっている。本学学生の特徴は、仏教学部ということもあり、日蓮宗の僧階取得講座も開講されていることから寺院子弟が多く在籍している。寺院には御宝物が所蔵されるが、これらを取り扱う技術を身につけるために、本コースを希望する者もいる。また、本学では仏像修復や文化財修復に関する科目を開講しており、これらを学ぶ学生も学芸員資格を取得するように指導している。平成13年度よりラオス国・ルアンパバンで世界遺産の仏像修復を行っているが⁽¹⁾、参加する学生も仏像だけでなく、寺院に所蔵される古文書・古典籍・信仰関係資料（曼荼羅本尊・仏具・金石文等）を取り扱える人材を養成するカリキュラムということで履修を勧めている。よって、寺院子弟のみでなく、寺院に関係ない、在家出身のものも多く履修している現状である。

博物館学芸員養成課程に関わる科目も、平成11年度のカリキュラム改変に伴い、開講科目名や内容の一部が変更されたが、それを示せば表1の通りである。

基本的な博物館学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲは現在本学専任教員が担当しているが、関係科目は学外の非常勤講師にもお願いしている現状である。博物館学Ⅰは、従来からの博物館学、Ⅱは博物館資料論、Ⅲは博物館情報論・経営論になっており、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲとステップアップとなっている。

博物館実習研究は、博物館実習を行うにあたり、留意点や心得、実際の資料の扱い方等を講義している。よって、本学図書館所蔵の資料を用いて実習を行うことも多々ある。選択科目も仏教系の科目、特に「タイの仏教と文化」「シルクロードの仏教と文化」といった世界の仏教文化を知るものや「寺院建築の基礎知識」「仏教遺跡の研究」といった具体的なカリキュラム構成をとっているのが特徴といえる。

(学芸員資格取得者数)

仏教学部の定員は1学年40名であるが、その内、学芸員資格取得者は表2に示す通りである。

これによれば、例年卒業生の10～19%が資格を取得しているということになるわけである。

資格に関する科目の履修は、1年次よりできるが、資格の主となる科目である博物館学は3年

表1 学芸員資格取得課程の開講科目(平成11年度以降)

| 区分 | 法定基準 | | 本学開講科目 | | | |
|--------------|------------|---------|------------|-------|---------|------------|
| | 法定基準 | 単位 | 授業科目 | 単位 | 履修年次 | 備考 |
| 必修科目 | 博物館学 | 6 | 博物館学Ⅰ | 2 | 3・4 | |
| | | | 博物館学Ⅱ | 2 | 3・4 | |
| | | | 博物館学Ⅲ | 2 | 3・4 | |
| | 教育学概論 | 4 | 教育学 | 2 | 2・3 | |
| | | | 教職論 | 2 | 2・3 | |
| | 生涯学習概論 | 4 | 生涯学習概論Ⅰ | 2 | 1・2・3・4 | |
| | | | 生涯学習概論Ⅱ | 2 | 1・2・3・4 | |
| | 視聴覚教育メディア論 | 2 | 視聴覚教育メディア論 | 2 | 2・3 | |
| | 博物館実習 | 3 | 博物館実習研究 | 2 | 3・4 | |
| | | | 博物館実習 | 2 | 3・4 | |
| 本学設定科目 | | | 4 | 仏教文化論 | 2 | 1・2・3・4 |
| 選択科目 | | 4 | 仏教文化史 | 2 | 1・2・3・4 | 2科目4単位以上選択 |
| | | | 日本文化史 | 2 | 1・2・3・4 | |
| | | | 仏教遺跡の研究 | 2 | 1・2・3・4 | |
| | | | 寺院建築の基礎知識 | 2 | 1・2・3・4 | |
| | | | 仏教美術史 | 2 | 1・2・3・4 | |
| | | | 宗教と民俗 | 2 | 1・2・3・4 | |
| | | | タイの仏教と文化 | 2 | 1・2・3・4 | |
| シルクロードの仏教と文化 | 2 | 1・2・3・4 | | | | |
| 合計 | 27 | 合計 | 38 | | | |

表2 学芸員資格取得者数

| 年度 | 卒業生数(a) | 講座履修者数(b) | 割合%(b)÷(a) |
|--------|---------|-----------|------------|
| 平成10年度 | 42名 | 6名 | 14.3 |
| 平成11年度 | 32名 | 6名 | 18.8 |
| 平成12年度 | 32名 | 5名 | 15.6 |
| 平成13年度 | 20名 | 2名 | 10.0 |

次にならなければ履修できないことにしている。期間は、博物館実習まで含めると4年間かかることになるが、おおむねの科目は3・4年次の2年間で履修できるように設定している。この他にも科目等履修生によって学芸員資格取得を目指すものがあり、2年間の聴講で資格を取得している現状である。資格取得の所要単位を修得した学生には、博物館学芸員としての基礎資格を有するものとして、卒業時に本学より「博物館学芸員資格課程修了証書」を授与している。

博物館実習の内容

博物館実習は、本学では、3・4年次に14日間の館務実習及び学外実習を行うことで認定することになっている。館務実習先は、学生本人が探すことを原則としているが、指定実習館として、以下の館に協力を要請し、実習を行っている。

1. 身延山宝物館^②
2. 河口湖町立河口湖美術館
3. 山梨県立考古博物館
4. 山梨県立美術館

しかし実際には、2から4の指定館で行うものは少なく、隣接する身延山大学内にある1. 身延山宝物館（博物館相当施設）で行う受講生が多い。

この宝物館は、身延山久遠寺本堂地階にあり、久遠寺の附属施設として位置している。

歴史は古く、大正14年から博物館施設として登録され、久遠寺境内にあったが、昭和60年に本堂が建立されるに際し、現在の本堂下に移転・新築されたものである。

宝物館では年に数回展示替えが行われるが、そのうち企画展が年に2回ある。その折に合わせて、6日間の実習を受け入れている。これを受けて、本学では博物館実習を行う予定の受講生に対し、年度当初に実習館が決まっているかどうかを調査している。その中で、身延山宝物館を希望する学生は、年に2回、実習を受け入れてもらうことにしている。この実績を示せば、平成10年度5名、同11年度7名、同12年度4名、同13年度2名、であり、この数字が示している通り、本学では受講生のほとんどが宝物館で実習を行っている現状である。特に宝物館での実習は、常設展・企画展の立案や館の運営に関する実習を行うが、主には、展示替えを中心とする実習である。他にも、博物館見学や身延山久遠寺が所蔵する資料の宝物庫である身延文庫^②の整理実習を行っている。このことは、本学と身延山宝物館の結びつきが深いことを示しているといえよう。

他にも、中富町立現代工芸美術館に依頼して、館内監視の実習を行っている。館員ボランティアとして、これに参加するものもいるが、本学では、午前の部と午後の部のどちらかの半日を実習することにより、半日分の単位を認定している。

この他にも、館外実習として、担当教員が引率し、寺院調査としての寺院・檀信徒宅で実習を行っているが、これを示せば表3のとおりである。



学外における博物館実習（大阪市蓮光寺）

表3 博物館実習の実習先・主な実習資料

| 年月日 | 実習先 | 実習内容 |
|--------------|---------|------------------|
| 平成10・8・22～23 | 京都市妙伝寺 | 宝物確認調査 |
| 8・24 | 京都市立本寺 | 宝物お風入れ手伝い |
| 平成11・7・23～25 | 岡山市妙林寺 | 境内金石文調査 |
| 8・18～19 | 大阪市蓮光寺 | 宝物調査（掛幅・卷子） |
| 8・21 | 京都市本法寺 | 宝物お風入れ手伝い |
| 10・8 | 清水市海長寺 | 宝物調査（古文書・掛幅・卷子類） |
| 平成12・2・8 | 清水市海長寺 | 宝物調査（古文書・掛幅・冊子類） |
| 3・12～13 | 岡山市妙林寺 | 宝物調査（仏像類） |
| 8・21 | 京都市本法寺 | 宝物お風入れ手伝い |
| 8・22 | 大阪市蓮光寺 | 宝物調査（掛幅・絵画類） |
| 10・14～15 | 岡山市妙林寺 | 宝物調査（掛幅類） |
| 平成13・3・2 | 富士川町永精寺 | 宝物調査（掛幅類） |
| 3・3～5 | 京都市善正寺 | 宝物調査（檀林関係資料・冊子類） |
| 3・6 | 富士宮市東漸寺 | 宝物調査（掛幅・経典類） |
| 9・24～25 | 京都市善正寺 | 宝物調査（檀林関係資料・卷子類） |
| 9・26 | 大阪市蓮光寺 | 宝物調査（掛幅類） |

（授業中における実習）

（平成13年度）

| | |
|-----------------|----------------|
| 静岡県由比町本光寺信徒所蔵資料 | 資料を借用して実習 |
| 身延山大学図書館所蔵資料 | 図書館の作業室において実習 |
| 身延町鴨狩豊光家所蔵資料 | 授業中に所蔵者宅において実習 |

（平成14年度）

| | |
|--------------|----------------|
| 身延町鴨狩豊光家所蔵資料 | 授業中に所蔵者宅において実習 |
|--------------|----------------|

身延山大学図書館所蔵資料 図書館の作業室において実習
 展示会の展示の企画・展示の手伝い
 図書館所蔵の和綴本・掛幅の整理

学外実習先は、いずれも日蓮宗寺院・檀信徒宅であるが、これは身延山大学が日蓮宗総本山である身延山久遠寺に隣接している関係や宗派的な関係の深さからである。しかし、これには事前の下見調査、実習先との連絡等の準備が必要となる。遠方の実習先の場合には、往復の時間や旅費を経費として支出しなければならないが、これは基本的には学生の負担としている。そこで、授業中では近隣の日蓮宗檀信徒宅に向いて実習を行っており、生の信仰資料を取り扱える良い機会となっている。隣接する本学図書館にも、冊子本を中心とする典籍類や掛幅・卷子本・経典といった貴重な資料があり、今後実習を積み重ね、図書館所蔵資料の整理の一助となればと考えている。

特に、寺院の虫払い実習は寺院の宝物を取り扱う場として最適である。そこで、例年8月21日に行われる京都本法寺霊宝虫払会⁽³⁾に参加し、宝物の出し入れや管理について実習を行っている。この本法寺は、国宝・重要文化財といった文化財を多く所蔵し、宝物管理の環境や資料の取り扱いを実習するのに適している。よって、今後も実習を依頼していきたいと考えている。

近隣の実習では、日帰り1日調査を実施しているが、遠方の実習では、調査先の寺院や近隣のホテルに宿泊して調査を行っている。実習であるので、基本的には前述の如く、調査に関わる参加者の交通費等に関しては、各自で負担することにしている。

実習に関する調査カード・筆記用具・防虫剤・薄葉紙等は、博物館実習費で購入したものを使用している資料整理に関しては、実習先の資料をデジタルカメラで1点ずつ撮影し、これを持ち帰ってパソコン処理してデータ化し、資料目録を作成している。

この実習データを基礎資料として編集するが、実習成果として次のものが刊行されている。

『大阪読経山蓮光寺寺宝鑑』⁽⁴⁾ 平成12年8月22日 イソップ企画

これは調査報告書として寺宝を写真紹介したもので、宝物台帳としてのみならず、宝物目録の役割も果たすものである。

これ以外にも、資料目録として公表していないが、寺院や檀信徒所蔵の宝物台帳として次のものを作成している。

1. 岡山市妙林寺宝物目録 平成12年3月31日
2. 大阪市蓮光寺宝物目録 平成13年3月31日（現在追加目録を作成中）
3. 富士川町永精寺宝物目録 平成13年9月21日
4. 由比町本光寺檀徒所蔵資料目録 平成13年12月8日
5. 身延町鴨狩豊光家所蔵資料目録 平成14年8月11日

所蔵の宝物は、寺院資料や仏教関係資料の分類に基づいて整理され、個々の宝物の種類に

もよるが、名称・数量・法量・年代・銘文を記す内容になっている。これは宝物台帳としての性格も有しているが、実際に活用してもらうためには内容を充実させ、宝物目録として機能するものを作成する必要がある。そこで、個々の資料の写真と資料データを作成し、資料散逸や保存のために現時点での保存状態を記録しておくことが肝心となる。さらには、これらの目録が今後寺史刊行・パンフレット作成の資料として役立つことを期待したい。

博物館実習の問題点

ここで、博物館実習における問題点を簡条書にして、まとめてみたい。

- 1、資料目録の作成に終わっており、今後資料の保存策を講じる必要があるとともに、所蔵者に資料の価値と保存の必要性を説いていくことが肝心である。
- 2、地域の博物館施設とタイアップして地域の文化財を整理・保存する作業を支援する必要がある。地域周辺市町村の教育委員会に出向いて、指定文化財保存状況を調査し、見学を含めて、実際の保存状況を把握してみることも必要なことである。
- 3、実習年度が2年間しかないので、作業内容を体得した頃に「博物館実習」の単位を履修してしまう傾向にある。
- 4、寺院の宝物を直接手にとり、扱わせていただくことは、実習先寺院のご理解があることであるが、もしも何かあった場合は取り返しのつかないことにもなりかねない。よって、この際の対処法を考えていく必要がある。

まとめに

以上、本学における博物館学芸員資格取得課程の現状について、開設科目の特徴、履修者の状況、博物館実習の特色とその問題点、等について検討してみた。本学の立地条件は、身延山久遠寺に隣接しているので、周辺の文化財や所蔵資料を授業の教材としていることが特色といえる。さらに、この立地条件を生かして、周辺寺院の宝物護持・管理に貢献していければと思っている。本学の位置する身延町は、仏教文化に関わる文化財が埋もれている現状であり、調査・研究活動をすることで、地域に少しでも貢献する博物館実習でありたいと考えている。そこで、今後は日蓮宗という宗派にとらわれず、身延町生涯学習課（文化財担当）の指導のもとで、地域文化財の整理・保存・公開といった点で協力し、地域に密着した博物館学芸員の養成を行っていききたい⁽⁵⁾。

博物館実習の学外実習における実習先は、日蓮宗寺院が中心となっていることからして、手に触れる実習資料は、日蓮宗寺院関係宝物が主となる。これが、本学課程の特色ともいえるが、これにも問題点はある。つまり、資料の宗派的な偏りがあることや調査カードを取る上で、日蓮宗や寺院資料の内容を理解していなければならず、事前に仏教や日蓮宗の基礎知識の習得

が必要とされることである。しかし、寺院の宝物に関わる行事や宝物展示設備がある寺院の宝物取り扱い実習を行っていけば、具体的な実習になると思われる。また、実際に資料が所蔵されている環境や資料の保存状態から、必ずしも最適な環境にはないため、履修生に資料保存の意義や必要性を理解してもらう絶好の機会となる。このことからして、寺院における資料取り扱い実習は、博物館教育としての効果は大きいといえる。そこで、積極的に寺院に赴いて作業を行い、また新たな資料所蔵寺院を開拓している。

現在も、博物館実習として海長寺・善正寺所蔵宝物を整理中であり、宝物目録が逐次作成される予定である。この積み重ねが、寺院資料や日蓮宗関係資料の保存・管理に役立っていくことも併せて期待したい。

（追記）

本稿で作成した表やデータは、身延山大学博物館学芸員資格取得講座の基礎データを基に作成した。これに際して、身延山大学当局のご理解と大学事務局職員のご協力を頂いた。記して学恩に謝する次第である。

註

- （1）本学仏教学部柳本伊左雄教授の指導のもと、本学学生がルアンパバンに夏季休暇・春季休暇等の休暇を利用して滞在し、現地の仏像修復を行っている。
- （2）身延山久遠寺内にあり、身延山久遠寺所蔵の宝物（曼荼羅本尊・仏像・絵画・古文書・典籍・棟札他）を所蔵する東蔵・西蔵が存在している。この中で、古文書・絵画の目録が刊行されており、現在古典籍の目録を作成中である。
- （3）例年8月21日に行われるが、一般公開はしていない。日時は天候等により延期・中止する場合がある。
- （4）写真集として刊行したもので、写真が公開されることにより、その寺院の宝物としての所在が明確になる。なお、この写真による資料集は所蔵者のご好意により、日蓮宗本山・近隣の日蓮宗寺院を始め、近隣の図書館等に寄贈されている。
- （5）平成13年度から15年度の3年間、身延町教育委員会の指導のもと、身延山久遠寺文化財調査が実施されている。